



新年明けましておめでとうございます。町内の皆様には、ご家族お揃いで輝かしい新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

旧年中は自治会活動につきまして格別のご理解とご支援を賜り誠にありがとうございます。心より厚くお礼申し上げます。

昨年を顧みますと東日本大震災で未曾有の災害となり、今なお地元に戻れず、避難生活をされている方々も多く、まことに変化の大きい年でした。

また、世界的な不況、自然災害の多発、新型インフルエンザの流行等、さまざまな出来事が起こった一年でした。

そんな中で、肥田町が順次整備を進められてきた、ほ場整備事業が完成に至り、新しい肥田の近代農業も昨年度から始まりました。米、麦、大豆の収穫も終わり、早

や今年の耕作準備も進められているようです。

今後は若い方々の積極的な協力のもと、生産組合を中心に、より効率的、効果的に水田の維持管理、事業運営ができることをお願いしたいと思います。

また県、市からの支援事業、農地・水・環境向上運動(肥田町まちおこし推進協議会)は、今年で五年間となり、支援事業も終了となります。町民皆様の深いご理解とご支援のおかげで順調に終了できることとなりました。

昨年、町内において、老人の行方不明の心配もあり、肥田町老人会・隣組の皆様の協力により、無事に見つけられました。本当にご協力ありがとうございました。

町内での、一人ひとりの安全を守るためにも、隣同士の日ごろからの声かけ、災害に対する迅速な行動が本当に大切だと考えさせられました。

自然豊かできれいな町、一人ひとりが笑顔で声をかけあえる町、安全で住みよい町はみんなの願いです。本年も自治会を始め、各種団体が力を合わせて努めてまいりたいと存じます。

最後に本年が皆様にとって、肥田町としても良い年であり、ますよう念じあげ、年頭のご挨拶いたします。

平成二十四年 元旦



hida

広 報

ひだ

町 木



第60号

肥 田 町

まちおこし推進協議会

H24.1.1発行

謹賀新年

自治会長 福原快隆



おめでとう
ございます
平成24年

益々のご発展を
お祈り申し上げます。

成人

平成3年生

薩摩 恭平

喜寿

昭和11年生

鶴野 清子

元持 安栄

薩摩 三和子

薩摩 芳子

還暦

昭和27年生

薩摩 隆司

成宮 克美

辻野 久和

薩摩 重代

元持 正行

傘寿

昭和8年生

伊関 徹男

藤野 貞夫

鹿島 義雄

青木 徳男

藤野 良枝

古稀

昭和18年生

薩摩 四郎

岩尾 善治

藤野 節子

大村 国子

鶴野 栄美子

米寿

大正14年生

山岸 長兵衛

宮川 春男

青木 一雄

辻野 茂



10/19

福寿会研修

(阪神淡路大震災記念
人と防災未来センター)



平成24年 成人の日 を迎えて

薩摩 恭平さん (父 薩摩 敬造さん)

新年あけましておめでとうございます。

今日、無事に成人の日を迎えることができましたのは、家族や地域の皆様の支えがあったからであると感謝しております。

昨年は、東日本大震災で数多くの尊い命が失われ、深い悲しみを覚えた一年でしたが、復興しつつあるという被災地のニュースを耳にする度、僅かばかり心弛んでおります。

現在、自分が将来何をしたいのか、答えが見つからぬまま大学に通っておりますが、人との絆を大切に、社会に貢献できるような大人になりたいと考えております。まだまだ未熟な私ですが、今後ともよろしくお願いいたします。

肥田の歴史を深く知ろう

「肥田の古墳、城、村、大地に刻まれた記憶」

彦根城博物館テーマ展示会より

昨秋に彦根城博物館と彦根市教育委員会の共同企画で「シリーズ戦国」第5回として「歴史のある町、肥田」を取り上げ「肥田の古墳、城、村」―大地に刻まれた記憶」と題して彦根城博物館で遺跡、遺物、文献史料、絵図、民具、村落景観、地名などの幅広い資料を用いて、時代ごとに変容していく肥田の姿が展示されました。この企画については、肥田町も広く協力をさせていただいております。また当館で催された説明会にも出席しましたが、多くの方が熱心にメモを取っておられる風景も見られました。約1か月間の展示期間に 15,777 名の方が訪ねて来られて興味深くご覧になられたと伺っております。



特に今回の特徴となっておりますのは、肥田の歴史を語る上で欠かせない三つの事象に着目されました。その一つが、証となる「古墳」でした。近年この地域の周辺では重要な古墳が相次いで出土しています。古墳時代前期に築城された荒神山山頂での荒

神山古墳があり、それは前方後円墳で、被葬者は湖東平野一帯で強い勢力を持った人物がいたと推測されています。また古墳時代の後期に現在の肥田に築造された塚手古墳は木製の埴輪を有する古墳として極めて注目に値し、この発見は同様にこの肥田一帯を拠点とした有力者がいたと推測されています。また肥田城跡遺跡の発掘調査により肥田の歴史文化の豊かさがはっきりと証明されました。その二は、「城」です。これは、今迄の広報ひだでも度々解説をして来ましたが、鎌倉時代の地元土豪の高野瀬氏が肥田城を築いて、ここを拠点として周辺地の支配をしていましたが、戦国時代に入り、湖北の浅井氏と湖南に勢力を持つ六角氏が肥田城を戦力的な重要拠点として確保すべく争いを繰り広げて来ました。水攻めの戦い、野良田の合戦は広く知られています。

その三は、「村」です。肥田の集落は、環濠集落から城下町形成のあゆみで、古くから各町内の中央に6～7/m幅の道路が通じそれに面して家屋が建ち、家屋の裏には水路が付けられ農村集落としては珍しく整った形をとって今日に至っています。また城下町を囲んだ土塁は、現在目に見える唯一の文化財的価値の高いものとして教育委員会も注目されて

います。また市の文化財指定を受けた鹿島邸宅にみられる代表的な古い民家も現存していて村落景観をも偲ぶことができます。(彦根城博物館テーマ展参照)

江戸時代には、肥田には商家が21軒、荷車11輛と一般集落とし

ては多く、物資の集散所として栄え、今の西町を走る道が肥田街道と称され8号線、朝鮮人街道と並行して走る間道でした。宇曾川の船運送もあって早くから農業に加えて商業が栄えたことがうかがえます。

この古墳、城、村の三つの日本の歴史に欠かせない事象が、同じ地域の中であって重層的に存在していることが「肥田の魅力」として取り上げられましたところ。肥田町においても、肥田町公民館に琵琶湖博物館学芸員の老文子さん、彦根城博物館学芸員の藤尾隆志さんを講師にお招きして「肥田の歴史―今に残る景観と遺跡」と題した講演会が開かれ、日を変えた現地説明会として「歴史ある肥田の町を歩こう」会が実施され、崇徳寺にある歴代の肥田の城主の墓に始まり、肥田の城跡碑、山王祠、現存する土塁など歴史ロマンロードを歩きながらの研修がなされました。参加された多くの方々からは、肥田町の深い歴史と、美しい自然と、整った町並みの素晴らしさに改めて感動をもらったとの評を多く頂いております。



(崇徳寺)

私たち肥田の住民は、こんなに素晴らしく、そして重厚な固有の歴史に育まれて今日があることを誇りとして、これをしっかりと次の世代に受け繋いでいく使命があると思います。古いものを大切にしながら新しいものを創り出してゆく、そんないつの時代にも活力のある町でありたいと願っています。(公民館には当展示会の冊子を置いておきますので是非ご覧下さい。)

まちづくり委員会 藤野 泰弘



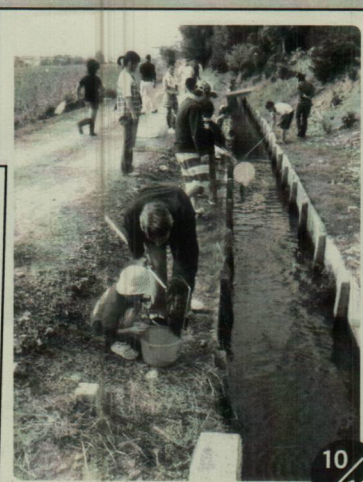
写真で見る 町の活動特集



10/19 福寿会研修
(阪神淡路大震災記念
人と防災未来センター)



10/15 有志による奉仕作業
(高橋からゴルフ場、
宇曾川堤防南側の斜面の除草作業)
薩摩四郎さん、薩摩正平さん
藤野信一さん、藤野隆司さん
ご苦勞様でした 西田幹夫さん



10/10 お魚観察会
自治会子ども会



9/11 自治会宇曾川堤防除草作業
(ホタル川周辺部)